



新潟県の自然災害伝承碑

新潟県の自然災害と自然災害伝承碑

自然災害伝承碑が建立された災害

No.	発災年月日	災害名	災害分類	災害犠牲者数
1	1751年5月21日	名立郡れ (高田地震)	5.土砂災害, 1.地震	2
2	1825年2月4日	戸倉山雪崩	7.その他	1
3	1828年12月8日	三条地震	1.地震	1
4	1881年4月30日	五反田切れ	3.洪水	1
5	1883年3月12日	尾神郡地蔵寺 (雪崩災害)	7.その他	1
6	1896年7月22日	横田切れ	3.洪水	2
7	1902年5月19日	栗立山の崩壊	5.土砂災害	1
8	1913年8月27日	木津切れ	3.洪水	1
9	1917年10月2日	曹川切れ	3.洪水	2
10	1918年1月9日	三保大雪崩	7.その他	1
11	1921年4月5日	六日野洪水	5.土砂災害, 3.洪水	1
12	1922年2月3日	藤山大雪崩	7.その他	5
13	1927年2月14日	大沼地すべり	5.土砂災害	1
14	1935年9月25日	昭和10年台風10号	3.洪水	3
15	1953年3月16日	小泊地すべり	5.土砂災害	1
16	1954年6月16日	新潟地震	1.地震, 2.津波	2
17	1956年7月17日	7.17水害 (下越水害)	3.洪水	1
18	1967年8月28日	羽越水害	3.洪水, 5.土砂災害	10
19	1969年4月26日	水沢新田地すべり	5.土砂災害	1
20	1969年8月9日	外波水害	3.洪水	1
21	1969年8月11日	昭和44年8月水害	3.洪水	2
22	1978年5月18日	白田川川上土流災害	5.土砂災害	1
23	1981年1月7日	大雪雪崩	7.その他	1
24	1985年2月19日	玉ノ木地すべり	5.土砂災害	1
25	1986年1月26日	横口なだれ災害	7.その他	1
26	1995年7月11日	7.11水害	3.洪水	2
27	1996年12月6日	蒲原沢土石流災害	5.土砂災害	1
28	1998年8月4日	平成10年8月4日水害	3.洪水	4
29	2000年6月18日	浅草点ブロック雪崩災害	7.その他	1
30	2004年7月13日	平成16年7月新潟・福島豪雨	3.洪水	2
31	2004年10月23日	新潟県中越地震	1.地震, 5.土砂災害	9
32	2011年7月27日	平成23年7月新潟・福島豪雨	3.洪水	1
33		特定の災害は無い(震災なる災害を克服)	3.洪水, 7.その他	2

自然災害伝承碑とは、過去に発生した自然災害 (洪水, 土砂災害, 高潮, 地震, 津波, 火山災害等) の様相や被害状況等が記載されている石碑やモニュメントのことです。

これらの碑は被災場所に建てられていることも多く、過去にその土地で、どんな災害が起こったかを知ることが出来ます (国土地理院)。

新潟県では32件の自然災害に対して67基の自然災害伝承碑が建立されています。

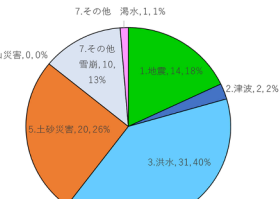
最も古い伝承碑は1751年に発生した名立郡れ (高田地震) に関するものです。

一つの災害で複数の伝承碑が設置されている例が12例あり、1967年の羽越水害では10基もの伝承碑が建立されています。

新潟県中越地震に関する伝承碑は9基で、震央から約11kmの範囲に集中しています。1922年の藤山大雪崩災害では伝承碑が5基建立されています。

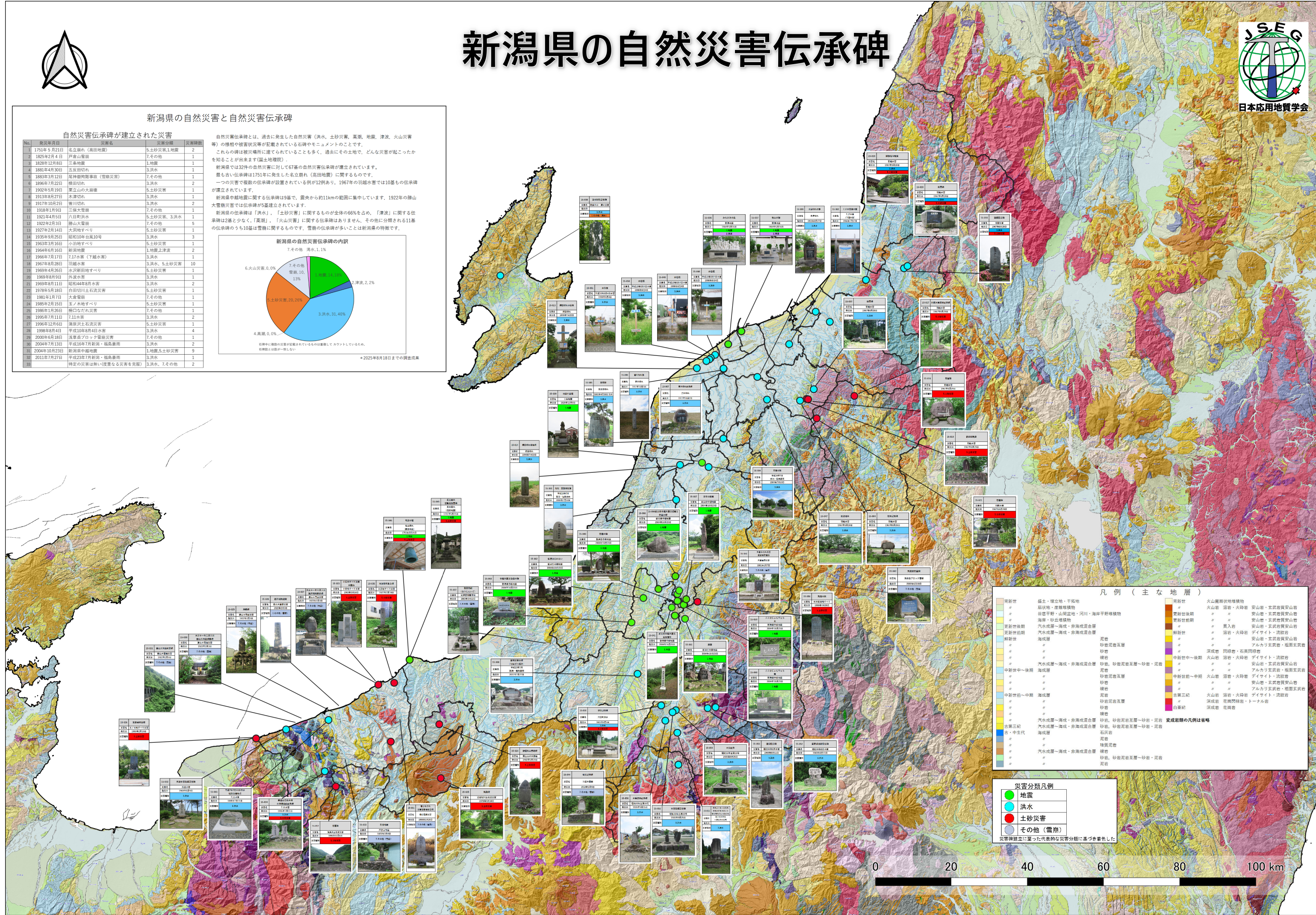
新潟県の伝承碑は「洪水」、「土砂災害」に関するものが全体の66%を占め、「津波」に関する伝承碑は2基と少なく、「高潮」、「火山災害」に関する伝承碑はありません。その他に分類される11基の伝承碑のうち10基は雪崩に関するものです。雪崩の伝承碑が多いことは新潟県の特徴です。

新潟県の自然災害伝承碑の内訳



石碑中に複数の災害が記載されているものは重複してカウントしていません。石碑数とは数が一致しません。

*2025年8月18日までの調査成果



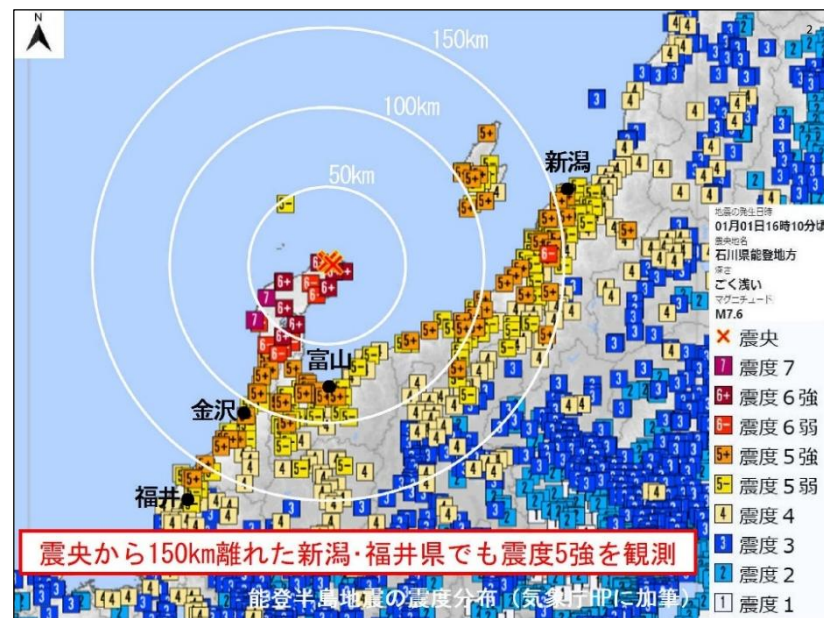


自然災害伝承碑から見た新潟県の自然災害とその原因

自然災害はその土地がもともと持っていた地形・地質的特徴（素因）により、強い外力（誘因）により発生します
一般社団法人日本応用地質学会では、その場所でなぜ自然災害が発生したのかについて、地質学，地形学，気象学的な視点を加えることによって、
自然災害伝承碑を、「何があったか」という災害の歴史的な標識から、災害発生の原因を理解し、「再び何が起こりえるか」という
将来のリスクを考える強力な教育ツールとして利用するアウトリーチ活動を行っていきます。

		地震災害	津波災害	洪水災害	土砂災害	雪崩災害
新潟県の主な災害と自然災害伝承碑		1751年 高田地震（名立崩れ） 15-45 名立崩れ受難者慰霊碑 15-46 竜宮の鐘 1828年 三条地震 15-39 地震亡霊塔 1964年 新潟地震 15-36 みちびきの像 15-37 桃山の碑 2004年 新潟県中越地震 15-40 慰霊の碑 15-41 新潟県中越大震災震央標柱 15-59 ここはじょんでえら 北 15-60 ここはじょんでえら 南 15-61 激震 15-62 私たちは忘れない 15-63 中越大震災復興の碑 15-66 新潟県中越大震災受難と慰霊の碑 15-67 日本の故郷	1964年 新潟地震 15-36 みちびきの像 15-37 桃山の碑	1881年 五反田切れ 15-05 移民碑 1896年 横田切れ 15-13 横田切れ水位標 15-14 横田切れ破堤記念碑 1913年 木津切れ 15-09 木津切れの跡 1917年 曾川切れ 15-06 曾川切れ跡 15-07 曾川切れ記念碑 1921年 六日町洪水 15-10 砂防記念碑 1935年 昭和10年台風10号 15-54 水災記念 15-55 水害復興記念碑 15-56 水害復興記念碑 1966年 7.17水害（下越水害） 15-02 7.17水害浸水標 1967年 羽越水害 15-15 都辺田観音 15-16 慰霊碑 15-17 羽越水害復興記念碑 15-18 復興記念碑 15-19 越後胎内観音 15-20 慰霊碑 15-21 慰霊碑 15-47 拓流和水 15-57 慰霊碑 15-64 復旧記念碑 1969年 昭和44年8月水害 15-52 蔵野部落跡記念碑 15-53 復旧記念碑 1969年 外波水害 15-32 外波水害復興記念碑 1995年 7.11水害 15-34 県道山之坊大峰小滝線 開設記念碑 15-65 平成7年7月11日堤防決壊地点 1998年 平成10年8月4日水害 15-48 水位標 15-49 水位標 15-50 水位標 15-51 水位標 2004年 平成6年7月 新潟・福島豪雨 15-03 村社 諏訪神社跡 15-04 慰霊の碑 2011年 平成23年7月 新潟・福島豪雨 15-08 豪雨災害の碑「七転び八起き」 その他 一連の洪水被害を克服 15-11 登川流路工記念碑 15-38 治水砂防記念碑	1751年 高田地震（名立崩れ） 15-45 名立崩れ受難者慰霊碑 15-46 竜宮の鐘 1902年 粟立山の崩壊 15-24 頌徳丸山善助碑 1927年 大洞地すべり 15-35 地滑残死者の碑 1963年 小泊地すべり 15-23 小泊地すべり災害百霊廟 1967年羽越水害 15-15 都辺田観音 15-16 慰霊碑 15-17 羽越水害復興記念碑 15-18 復興記念碑 15-19 越後胎内観音 15-20 慰霊碑 15-21 慰霊碑 15-57 慰霊碑 1969年 水沢新田地すべり 15-58 殉難の碑 1978年 白田切川土石流災害 15-25 殉難碑 1985年 玉ノ木地すべり 15-26 受難者慰霊碑 1996年 蒲原沢土石流災害 15-12 慰霊碑 2004年 新潟県中越地震 15-40 慰霊の碑 15-61 激震 15-62 私たちは忘れない 15-63 中越大震災復興の碑 15-66 新潟県中越大震災受難と慰霊の碑 15-67 日本の故郷	1825年 戸倉山雪崩 15-33 白池地藏 1883年 尾神嶽受難事故 15-22 報盡為期（ほうじんいご） 1918年 三俣大雪崩 15-44 雪災記念碑 1922年 勝山大雪崩災害 15-27 大正十一年二月三日 親不知殉難君碑 15-28 親不知殉難碑 15-29 勝山雪崩殉難碑 15-30 大正十一年二月三日 勝山大雪崩遭難碑 15-31 勝山大雪崩慰霊碑 1981年 大倉雪崩災害 15-43 大倉なだれ災害受難者慰霊碑 1986年 柵口雪崩災害 15-01 柵口なだれ災害受難者慰霊碑 2000年 浅草岳ブロック雪崩災害 15-42 殉難者慰霊碑
		・急峻な山地・丘陵 ・海岸段丘・河岸段丘沿いの急崖	・海岸沿いの低地 ・遠浅の海底地形（増幅効果）	・越後平野、高田平野などの低平な 沖積平野 ・砂丘後背地の湖沼・湿地、ゼロメートル 地帯の広がり ・不安定な河岸・堤防 ・蛇行河川 ・山間地に分布する盆地状平地 ・洪水に脆弱な山間地の急流河川	・急峻な山地、丘陵地 ・流れ盤斜面 ・山間地の河川の下刻 ・急流河川 ・地すべり地形、崩壊地形 ・海岸段丘・河岸段丘沿いの急崖	・傾斜30度以上の急斜面 ・低木やまばらな植生 ・雪庇や吹き溜まりの形成 ・高標高地帯での残雪
		・ひずみ集中帯 日本海東縁変動帯 新潟－神戸ひずみ集中帯 ・褶曲帯 ・活断層の存在 ・平野部に広がる軟弱地盤 ・川や海・風によりもたらされる 砂地盤・砂丘の形成	・日本海東縁変動帯の活断層 ・海底斜面への未固結堆積物の堆積に よる海底地すべり発生	・脆弱な自然堤防	・褶曲帯 ・活断層の存在 ・地すべりを引き起こしやすい 堆積軟岩の分布（地すべり岩） ・変質作用による岩盤の劣化 ・蛇紋岩の分布 ・火山活動による不安定な急斜面	・構造運動による山地の形成 ・浸食作用による急傾斜地の形成 ・火山活動による斜面形成
		・地震前の豪雨 ・地震前の豪雪による積雪荷重の増大		・梅雨前線の通過 ・台風の来襲 ・日本海型気候（豪雪） ・冬期間でも気温が上昇する	・梅雨前線の通過 ・台風の来襲 ・日本海型気候（豪雪） ・冬期間でも気温が上昇する	・日本海型気候（豪雪） ・冬期間でも気温が上昇する
		・地下水、天然ガス汲上げによる地盤沈下	・地下水、天然ガス汲上げによる地盤沈下	・地下水、天然ガス汲上げによる地盤沈下 ・近代以前に施工された河川改修による 脆弱な堤防	・不安定な切土や盛土 ・樹木伐採による山林の荒廃 ・休耕田の広がりによる山地荒廃	・高標高地帯での残雪 ・バックカントリーや山菜取りなど雪崩が 起きやすい場所に人が近づく
		・プレート運動による応力蓄積と解放 ・活断層による内陸直下型地震の発生	・日本海底での活断層活動による地震の発 生、海底地殻変動	・線状降水帯発生による集中豪雨 ・台風などによる広範囲な豪雨 ・気温上昇による異常融雪	・線状降水帯発生による集中豪雨 ・台風などによる広範囲な豪雨 ・融雪 ・地震動	・大雪 ・短期間の多量降雪 ・気温上昇による融雪・フェーン現象 ・吹雪・強風 ・地震動
		・激しい揺れ ・地盤の隆起、傾動、陥没 ・地割れ、亀裂の発生 ・土砂災害 ・地盤の液状化	・津波	・堤防の決壊、堤防からの溢水 ・洪水 ・湛水（長期間におよぶことも）	・地すべり ・がけ崩れ ・土石流 ・深層崩壊	・表層雪崩 ・深層雪崩 ・全層雪崩
		人的被害の発生、孤立集落の発生、住民移転、人口流出、集落の消滅 ライフラインの寸断・機能不全				
		・建物の倒壊 ・道路や構造物の損壊 ・堤防の損壊、決壊 ・天然ダムの結成、湛水・決壊 ・地盤の液状化	・建物や構造物、道路の破壊、流出 ・ゼロメートル地帯での長期間の湛水 ・土砂の堆積 ・河川の洗堀	・堤防の破損 ・河川構造物の破損 ・道路や構造物の損壊 ・家屋・農用地の浸水、流出 ・土砂の堆積 ・ゼロメートル地帯での長期間の湛水	・人的被害 ・家屋、道路、構造物、農地、林地の破壊	・家屋、道路、構造物、農地、林地の破壊 ・樹木の消失、地形改変による雪崩発生リ スクの増大（雪崩道の形成）

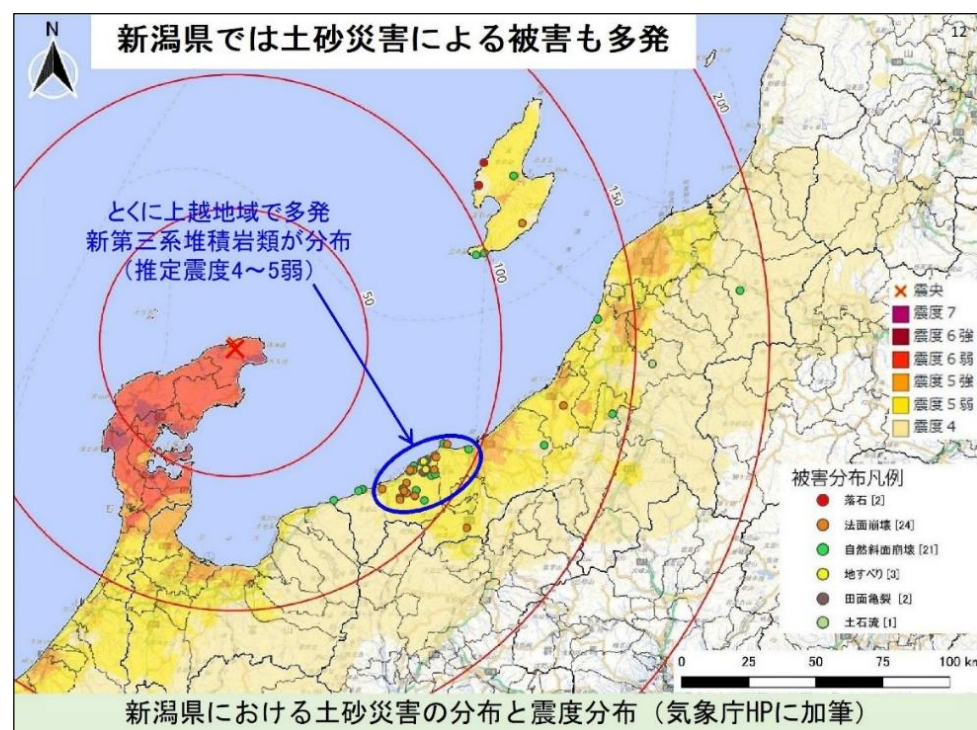
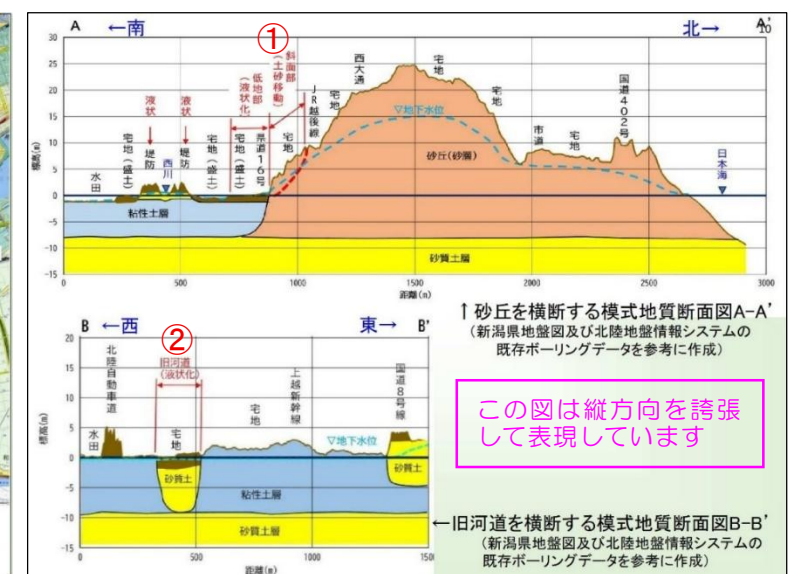
令和 6(2024) 年能登半島地震による新潟県内の被害状況（災害調査団報告書より抜粋）



令和 6(2024) 年 1 月 1 日、能登半島を震源とする M7.6 の地震が発生し、能登地域を中心に多大な被害が生じました。震央から 150km 離れた新潟県内でも広い地域で震度 5 強（一部では震度 6 弱）を観測し、各地で地盤の液状化、地すべり・斜面崩壊等の被害が生じました。



＜地盤の液状化＞
新潟市西区青山～大野（図中の①）、同区ときめき西～鳥原（同②）、江南区天野（同③）では、地面の段差・開口亀裂、陥没・沈下、傾斜・移動、隆起、地下水や砂の噴出等、地盤の液状化に伴う変状・被害が集中しました。地形的に①は砂丘内陸側斜面下部、②③は旧河道に位置しており、いずれも緩い砂地盤で地下水位が浅いことが特徴です。このような場所は昭和 39(1964) 年の新潟地震でも液状化した履歴があり、対策を施していないと強い地震動で液状化が繰り返されることが確かめられました。



＜土砂災害＞
震源に近い上越地方では、比較的新しい時代に形成された脆弱な堆積岩類が分布している地域で、地すべり・斜面崩壊等の被害が生じました。



糸魚川市中野口地区では、長さ 180m、幅 75m の規模で地すべりが発生しました。地震動だけでなく、地震前の 12 月の降雪・融雪が影響していた可能性があり、水抜きボーリング等の対策工が施工されました。



日本海に面した急斜面では、複数箇所でも崩壊が発生しました。このような急斜面は柏崎から県境まで連続しており、過去の地震でも各所で崩壊した履歴があり、加えて交通の要衝でもあるため、更なる対策が必要です。

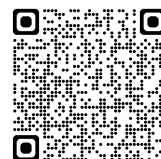


<津波>

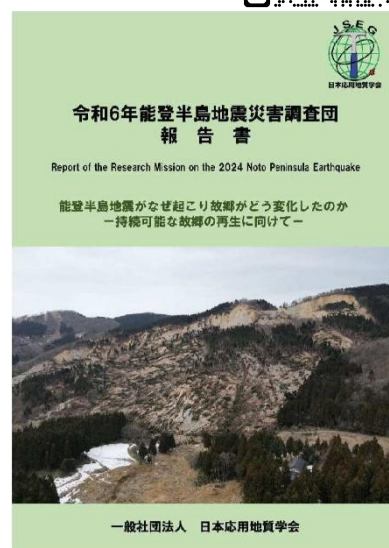
石川・富山県だけでなく、新潟県内でも津波の被害が見られました。気象庁の県内の津波観測点では最大波高が 35cm 前後でしたが、上越市や佐渡市では 3m を超える遡上高・浸水高が確認され、港湾施設の破損、人家の浸水、漁船の損傷等の被害が認められました。

報告書の見本はテーブルの上にあります。
購入を希望される方はこの QR コードから↓

当学会では災害調査団による調査結果を報告書にまとめるとともに、今年 1 月 11 日には金沢市において一般市民に向けた現地報告会を開催し、報告書の内容をわかりやすく説明しました。

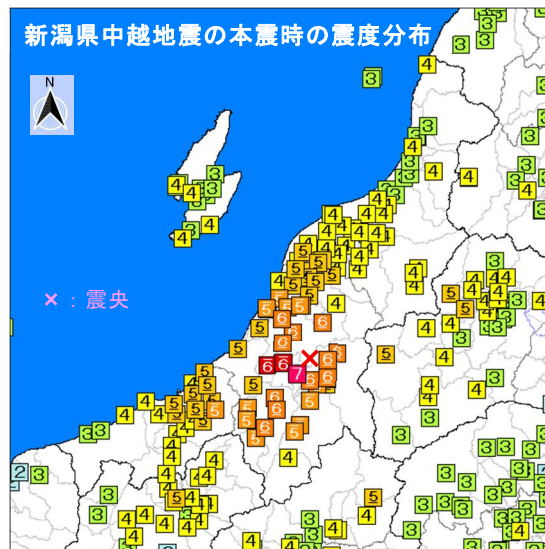


現地報告会の様子（会場＋オンラインで約 250 名が参加）



新潟県で発生した近年の地盤・土砂災害による被害状況と当学会の取り組み

2004(平成 16)年新潟県中越地震



気象庁ホームページより引用・加筆

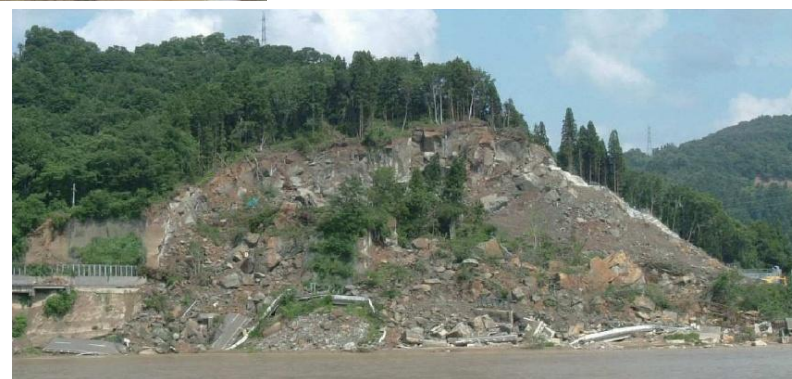
東竹沢地すべり（旧山古志村）

全長約 365m、幅約 250m、高低差約 60m の規模で運動し、水平移動距離は約 100m でした。末端を流れる芋川を約 250m に渡ってせき止め（河道閉塞）、上流の木籠集落が水没しました。河道閉塞部が決壊して下流域に土石流として流下する事態を防止するため、大変な苦労が払われました。



妙見地すべり（長岡市）

全長約 140m、幅約 250m、高低差約 60m の規模で運動した初生岩盤すべりで、地震前の地形図から地すべり地形は認められません。中腹の県道を通行中の車が巻き込まれ、余震が続く中でハイパーレスキュー隊が救出にあたる様子をテレビで生中継されるなど、全国の注目を浴びました。



2004(平成 16)年 10 月 23 日 17 時 56 分、新潟県中越地方を震央とする M6.8 の地震が発生しました。この地震では、旧川口町で震度 7、小千谷市・旧山古志村・旧小国町で震度 6 強、中越地方の広範囲で震度 6 弱～5 弱を記録しました(左図)。この地震に伴い、地すべり・崩壊等の斜面災害が多発し、道路や電気・水道が各所で長期にわたり寸断されて集落が孤立するなど、中山間地における直下型地震の広範囲・大規模な被害や長期化する復旧・復興への課題が露呈しました。



塩谷神沢川地すべり

（旧山古志村）

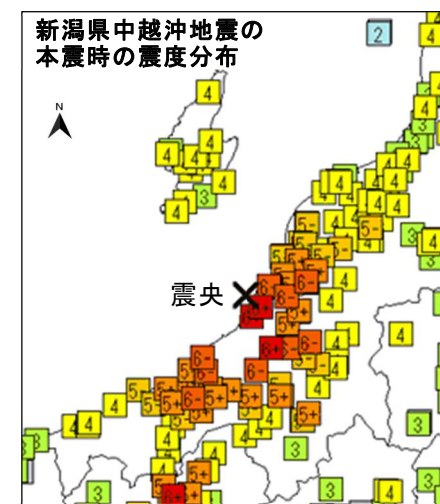
全長約 650m、幅約 450m、高低差約 120m の大規模な地すべりで、水平移動距離は約 100m でした。規模の割に回転運動を伴う、ユニークな形態の地すべりでした。

中越地震発生当時、国内には地震に伴う斜面災害の事例は少なく、復旧・復興に向けた地すべり対策を検討する地質技術者は大変苦勞しました。当学会北陸支部では、この時の貴重な経験を記録集にまとめ、**冊子・CD-R として出版**しました。この成果は、その後他地域で発生した地震地すべりの対策検討の参考資料として役立っています。

この冊子の見本はテーブルの上にあります。
「CD-R 復刻版」の購入を希望される方はテーブル上のチラシをご覧ください。



2007(平成 19)年新潟県中越沖地震



気象庁ホームページより引用・加筆

2007(平成 19)年 7 月 16 日 10 時 13 分、新潟県中越沖を震央とする M6.8 の地震が発生しました。この地震では、柏崎市・刈羽村・長岡市で震度 6 強、中越・上越地方の広範囲で震度 6 弱～5 弱を記録しました(左図)。この地震に伴い、地すべり・崩壊等の斜面災害や地盤の液状化が多発しました。とくに、柏崎市～刈羽村の平野部や砂丘下部斜面では液状化による被害が深刻で、3 年前の中越地震でも被災した多重被災世帯が続出しました。また、海岸の急斜面（青海川地区）では大規模な崩壊が発生し、約 2 カ月も鉄道が不通になりました。



青海川地区における大規模崩壊



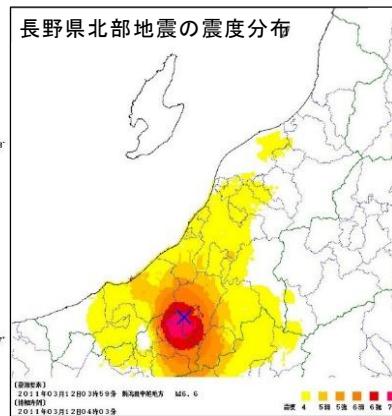
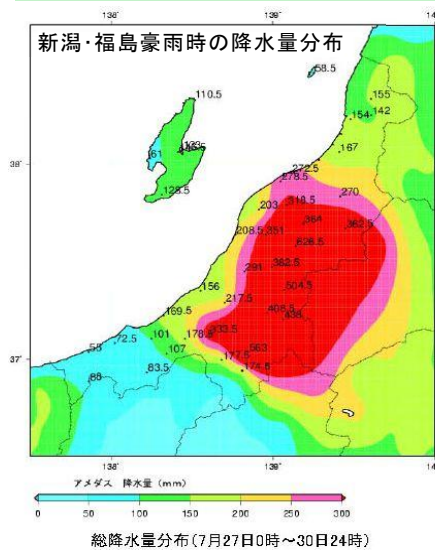
砂丘中腹斜面での崩壊・擁壁転倒



液状化によるマンホール浮上

新潟県との「災害時の応援業務に関する協定」に基づき、（一社）新潟県地質調査業協会は 3000 箇所余りの土砂災害危険箇所の点検を行いました。当支部会員はこの業務に積極的に協力しました。

2011(平成 23)年新潟・福島豪雨



2011(平成 23)年7月28日から30日にかけて、日本海からのびる前線が新潟県中越～福島県会津地方に停滞し、猛烈な雨を観測して記録的豪雨災害となりました(左図)。この豪雨に伴い、土石流・崩壊等の土砂災害や浸水害が多発し、道路の寸断・通行止め、鉄道の運休等の障害が発生しました。とくに十日町地方の被害は、猛烈な雨だけでなく、4ヵ月前に発生した長野県北部地震(M6.7)の震央に近いたため、震度6弱～5弱の地震動を受けて地盤が緩んでいたと考えられています。



道路の寸断

崩壊・土石流の土砂は道路上だけでなく、トンネルや洞門内にも流入・堆積しました。緊急車両の通行を確保するため、土石流警報器を設置するなどの措置がとられました。

土石流・河川氾濫

多くの溪流で土石流が発生し、中小河川の多くでは越流・氾濫が認められました。農地や道路だけでなく、人家に直撃したところも見られました。

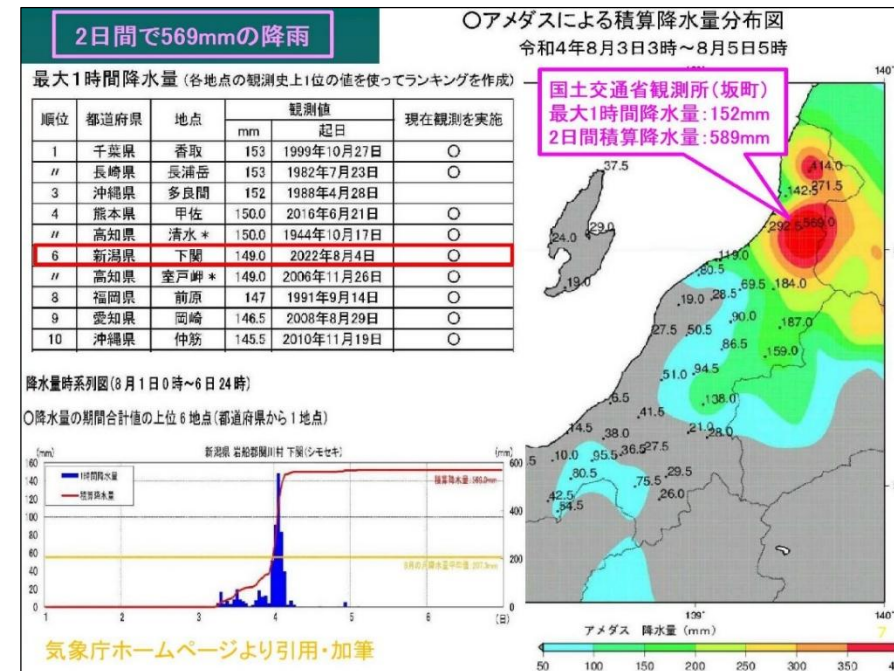
斜面崩壊

急斜面のいたるところで崩壊が発生しました。人家が被災した場所も多く、災害関連緊急事業による対策工が施工されました。



新潟県との「災害時の応援業務に関する協定」に基づき、(一社)新潟県地質調査業協会は3000箇所余りの土砂災害危険箇所の点検を行いました。当支部会員はこの業務に積極的に協力しました。

2022(令和 4)年新潟県北部豪雨



小岩内土石流(村上市)

小岩内集落では市からの避難指示に基づいて指定避難所に避難を試みましたが、途中の道路が土砂崩れで通行不能となり、地区の公会堂に避難しました。しかし、55年前の羽越水害を体験した区長さんは「このままでは危険」と考え、約150m離れた高台への再避難を決断しました。全員避難を終えた2時間後、大規模な土石流が公会堂を直撃しました。この犠牲者を出さなかったことは「小岩内の奇跡」として防災の専門家から高く評価されています。

一般県道鶴岡村上線

(朝日スーパーライン:村上市)
村上市三面地内から県境までの猿田川沿い約30km間では、約30箇所が道路崩落・路肩欠損・法面崩落・土砂流出等により被災し、車両が通行できない状況になりました。順次復旧が進められていますが、3年経過した現在でも全線が通行可能となる見通しは立っていません。



新潟県との「災害時の応援業務に関する協定」に基づき、(一社)新潟県地質調査業協会は160箇所余りの土砂災害危険箇所等の点検を行いました。当支部会員はこの業務に積極的に協力しました。このうち土石流危険箇所では、ドローンを使用して点検しました。

当学会北陸支部および災害地質研究部会の「防災・減災」や「経験・教訓の伝承」への取り組み

自然災害伝承碑の調査

過去に発生した津波・洪水・火山災害・土砂災害等の自然災害に係る事柄が記載されている石碑やモニュメントを「自然災害伝承碑」といいます。当学会災害地質研究部会では、全国の自然災害伝承碑を応用地質学的な観点から調査しています。

新潟県内の分布や調査結果（概要）は正面のポスターまたはモニターをご覧ください。

（今年度中に当学会ホームページに掲載される予定で、国土地理院とも連携します。）



自然災害伝承碑の例（横田切れ）

若手技術者を対象とした技術伝承講習会の開催

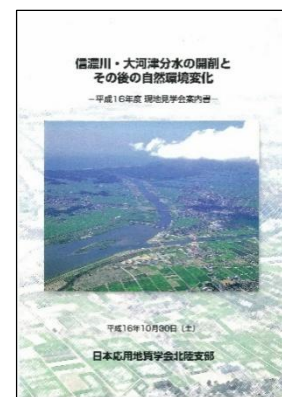
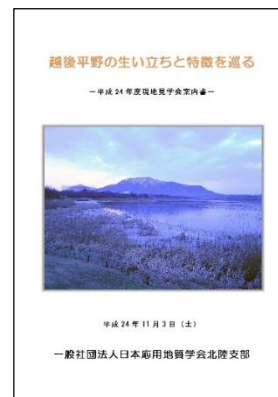
当学会北陸支部では、（一社）新潟県地質調査業協会と共催し、若手技術者を対象とした解析技術の伝承講習会を実施しています。この講習会は、ベテラン技術者が書籍等に記載されない技術やノウハウを伝承しようとするもので、このうち「地すべり解析コース」では、「土砂災害の疑問 55」を活用して実施しました。



現地見学会・現場研修会の開催



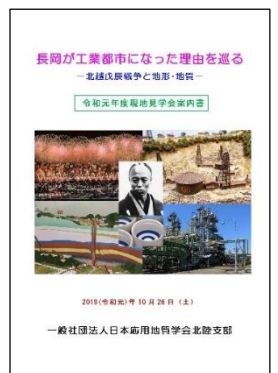
2012年：越後平野の生い立ち



2012年（新潟市）、2019年（長岡市）には当学会研究発表会（全国大会）が開催され、北陸支部では現地見学会を計画・運営しました。これらの見学ルートには、度重なる**自然災害とそれを克服してきた新潟の歴史**が織り込まれており、県外の技術者に広めるとともに、若手技術者にも伝承しました。＊2004年（新潟市）は新潟県中越地震のため中止



2019年：長岡が工業都市になった理由



当時作成した見学会案内書をテーブルの上に配置しました。興味のある方はご覧ください。

北陸支部では会員向けに行事を開催していますが、将来は市民向けも目指します。災害地質研究部会では全国各地で市民向けの現地見学会等を開催しています。



2011年：すべり面観察法



2014年：中越地震災害から10年



2016年：立山カルデラの地形・地質

当学会北陸支部では、毎年秋に会員を対象にした現地見学会・研修会を開催しています。その中には**自然災害や若手への技術伝承をテーマにした企画**があります。

- 2002年：火砕岩（角田海岸）の応用地質学的観察法
- 2004年：信濃川・大河津分水の開削とその後の自然環境変化（中越地震で中止）
- 2005年：新潟地域の新第三系～第四系の地層観察法～
- 2006年：鳴海金山・奥三面ダム井
- 2007年：新潟県中越地震のその後一山古志村（学会本部と共催）
- 2008年：若手技術者のための地形・地質調査法～中越沖地震の斜面変動～
- 2009年：新第三紀堆積岩類の堆積構造の観察法
- 2010年：越後平野西縁断層周辺の活構造の観察法～鳥越・片貝断層～
- 2011年：すべり面観察法～長岡市妙見地すべりを対象として～
- 2012年：越後平野の生い立ちと特徴を巡る（全国大会行事）
- 2014年：新潟県中越地震災害から10年～当時の技術者が若手へ伝える～
- 2015年：新潟県内における最近の治水事情
- 2016年：立山カルデラの地形・地質観察＊
- 2017年：糸魚川ジオパーク～地質と文化・人との関わりを学ぶ～※
- 2018年：佐渡（応用地形部会と共催）
- 2019年：長岡が工業都市になった理由を巡る（全国大会行事）
- 2022年：北部糸魚川静岡構造線沿いの斜面変動を巡る＊
- 2023年：国内最大のエネルギー開発拠点 INPEX 南長岡ガス田の見学＊
- 2024年：広田地すべり＊

＊日本地すべり学会新潟支部と共催 ※新潟県地質調査業協会と共催 #新潟応用地質研究会と共催



2022年：糸魚川～静岡構造線沿い



2024年：広田地すべり